

2020年1月31日

Vol
132

基準価額の水準に「高い安い」はない?! 単なるモノサシであることを理解しましょう。

2020年が始まり、約1ヵ月が経過しました。

足もとでは新型コロナウイルス拡大への警戒はあるものの、昨秋からの世界の金融市場の上昇を受け、当社ファンドの中には、設定来高値圏にあるものも少なくありません。

そのためか、コールセンターには「基準価額が高いうちに売却した方がいいか」「基準価額が高くて買いづらい」といった、基準価額の水準に関するお問い合わせが以前よりも増えている気がします。

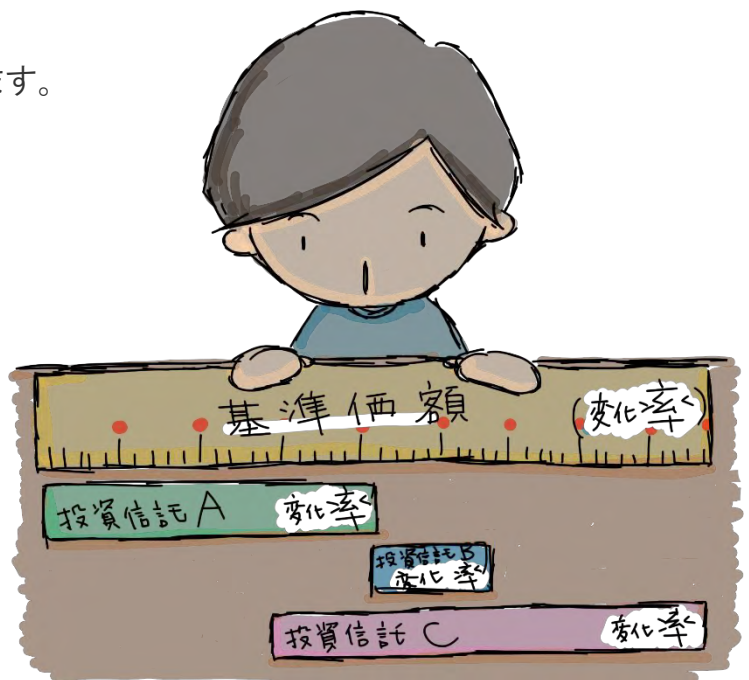
基準価額は、単なるモノサシ

投資信託の基準価額は、単なる“モノサシ”です。

モノサシは測るものですから、その水準自体に「高い安い」はありません。

では、何を測るのかというと、

ある時点からの変化「率」を測ります。

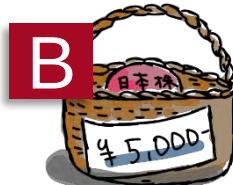




基準価額の水準自体に、優劣はありません。

2つの架空のファンドがあるとします。ともに、日本株式を投資対象にしており、偶然にも全く同じ銘柄に全く同じ比率で投資しているとしましょう。ファンドAの基準価額は15,000円、ファンドBは5,000円です。

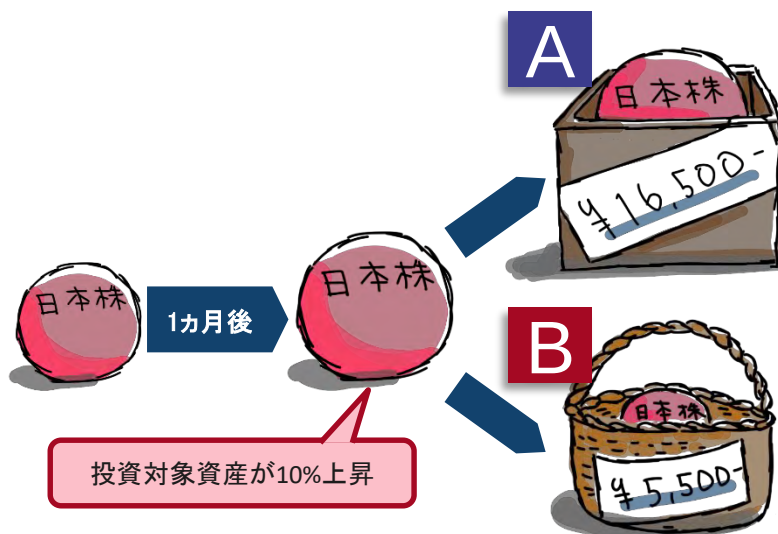
「ファンドAとB、どちらに魅力を感じますか」



1ヵ月後。

ファンドAとBが投資する日本株式が10%値上がりしたとしましょう。基準価額はというと、ファンドAは16,500円、ファンドBは5,500円に値上がりします*。投資対象資産が10%上がったら、基準価額も10%上がるだけ。

つまり、「AとB、どちらを買い付けても同じだけ上昇する」のです。



*簡易的な説明をしています。投資対象の変動率と投信の変動率とは、その投信の投資目的やインデックスファンドかどうかなどの商品性の他、様々な理由により異なります。また、投資金額がいくらになっているかどうかについては、税金や手数料等のコストを考慮していません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



基準価額が、ある時点からの変化率を測ったものにすぎないことがお分かりいただけたでしょうか。大切なのは、基準価額の水準ではなく、投資対象資産がどれだけ上がったかなのです。

過去と今では、“中身”が違う?!

「それでも、15,000円という水準に抵抗がある」という方も少なくないかもしれません。

本日の基準価額は、運用を開始した日(設定日)からの変化率を測ったものにすぎません。投資対象資産が上がった(下がった)分だけ、基準価額も上がって(下がって)います。ただし、覚えておきたいのは、設定日以降、全く同じ銘柄を保有し続けているわけではないということです。多くのファンドでは、運用のプロであるファンドマネージャーは、割高だと判断した銘柄は売却し、割安や妥当だと判断する銘柄に入れ替えを行なうなど、少しでも上がる可能性のある銘柄に投資をしていきます。入れ替えをした銘柄が、ファンドマネージャーの目論見通り上がれば、その分だけ基準価額も上がるのです。やはり、ここでも大切なのは、本日の基準価額の水準ではなく、これから投資対象資産がどれだけ上がるかなのです。

「5,000円くらいの投信がオトクだ」、「15,000円の投信は高くて嫌だ」といったように、基準価額の水準だけを見て、投資信託の良し悪しを決めるのはどうやら間違いと言えそうです。これから上がる期待が持てる投資先かどうか、という視点が大切です。

※簡易的な説明をしています。投資対象の変動率と投信の変動率とは、その投信の投資目的やインデックスファンドかどうかなどの商品性の他、様々な理由により異なります。また、投資金額がいくらになっているかどうかについては、税金や手数料等のコストを考慮していません。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。